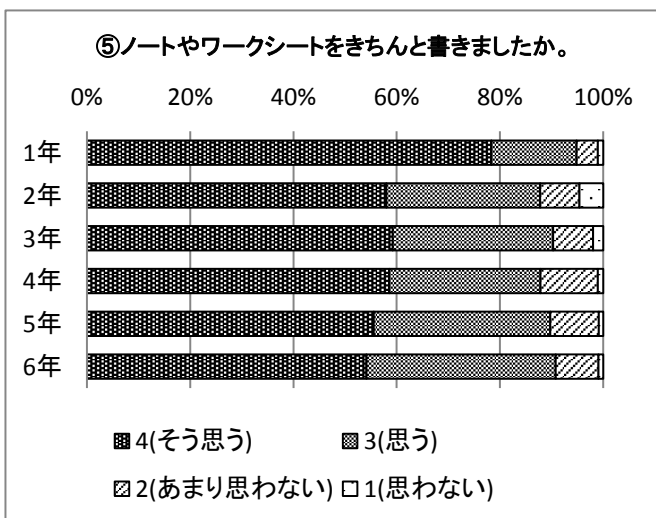
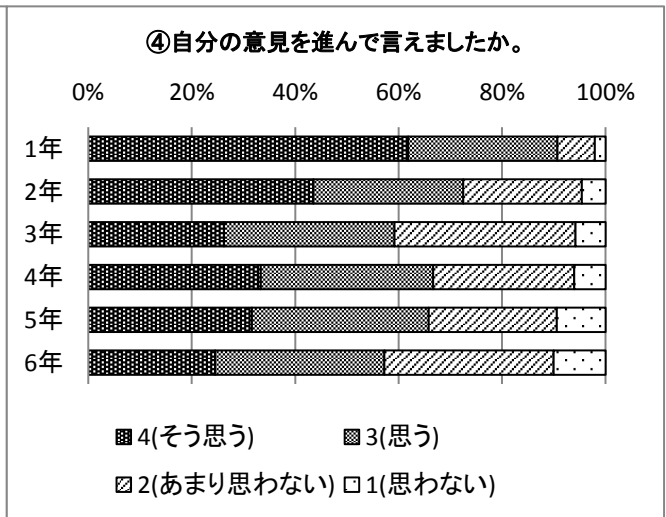
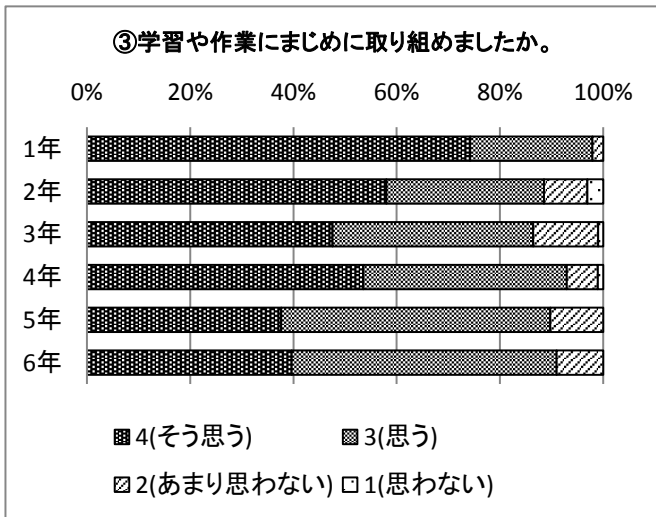
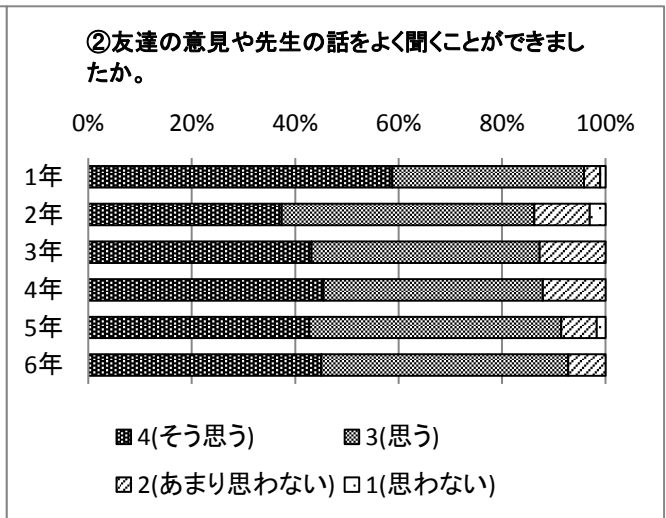
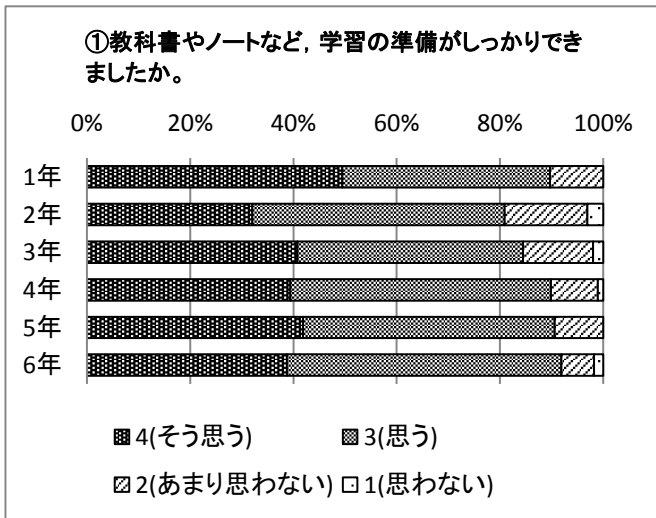


3 児童アンケートの結果



①全体的に80%はよい評価をしているものの、2年生の4(そう思う)の割合が極端に低いです。1日の生活の中に、学習予定を連絡帳に書くこと、翌日の準備の時に連絡帳を確認すること、朝の出かけにもう一度見直すことをルーティーンに加え、少しでも解決できるよう指導して参ります。

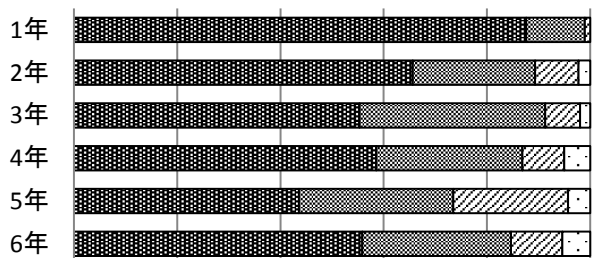
②話を聞くことは、どの学年も90%肯定的です。しかし、4(そう思う)の割合は、1年生を除いて半数に届いていません。一方、④の意見を言うことについては、さらに数値が下がり、肯定的な割合は平均60%にとどまっています。「聞く」「話す」は一対の活動ですから、そのやり取りがびったりと噛み合っこそ学習が充実していきます。「聞く」「話す」環境を整え、新学習指導要領の柱であるアクティブラーニングを積極的に導入し、解決に向けて取り組んでまいります。

③「まじめに取り組んでいない」と感じている子が、低学年でもいることが心配です。また、高学年になるにつれて「取り組めた」と感じる子が少なくなっていることも残念です。一生懸命取り組むことを恥ずかしがらず、お互いに影響し合えることが素晴らしい、それが誠之人道の精神なのだ伝えていきたいです。

⑤ノートやワークシートの記入については、およそ90%の児童が満足しています。ノートに書くということは、自分の思考過程を記録し、友達の考えなども書きとめて自分の思考と比べ、そして結論へ導く一つの手段です。結果的に板書を写しておくことも大切ですが、のちにノートを見直してみて、その学習時間に何を学んだのかが甦ってくるような書き方も指導していきたいです。

⑥授業は楽しくできましたか。

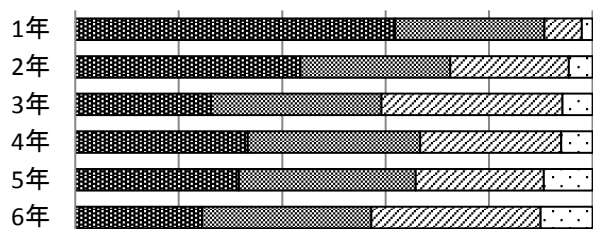
0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 4(そう思う) ■ 3(思う)
 ▨ 2(あまり思わない) □ 1(思わない)

⑦自分の考えや意見をしっかり聞いてもらえましたか。

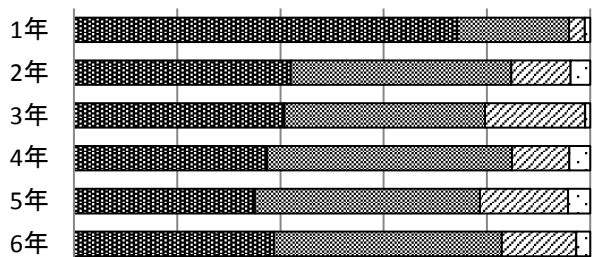
0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 4(そう思う) ■ 3(思う)
 ▨ 2(あまり思わない) □ 1(思わない)

⑧がんばったことを認めてもらえましたか。

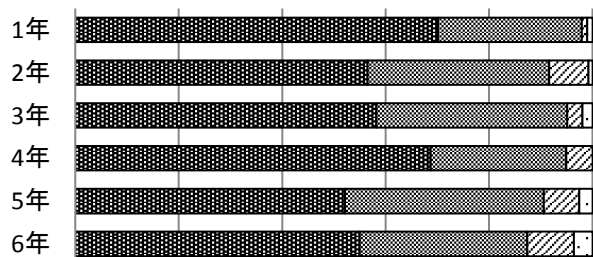
0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 4(そう思う) ■ 3(思う)
 ▨ 2(あまり思わない) □ 1(思わない)

⑨説明や指示はわかりましたか。

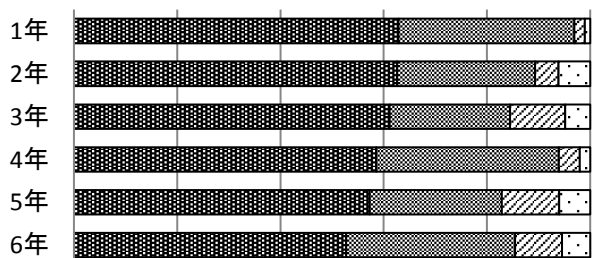
0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 4(そう思う) ■ 3(思う)
 ▨ 2(あまり思わない) □ 1(思わない)

⑩答えを出すのに考える時間がありましたか。

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 4(そう思う) ■ 3(思う)
 ▨ 2(あまり思わない) □ 1(思わない)

⑥5年生の2(あまり思わない)が多いことが気になります。これは教師の反省でもあります。確かに高学年になると学習内容はかなり難しく、1時間ごとに完結する授業も少なくなります。しかし、「点」と「点」のように学んだ知識の一部が、次の授業でつながった瞬間を「楽しい」と感じ、自分の力で解決できたことを喜びに変えてほしいと願っています。

⑦昨年度の評価同様、話を聞いてもらえなかったと感じている児童が多いことが反省点です。さらに、6年間で4(そう思う)の割合は半減してしまうことが非常に残念です。お互いに聞き取る活動を多く取り入れた学習を展開し、⑥の「楽しい学習」に導いていきたいです。

⑧「がんばったことを認めてもらう」項目は、全体的には80%を超えているものの、4(そう思う)と3(思う)の割合がほぼ同数です。昨年度もそうでしたが、認めるという行為が、言葉だけでは形として残らないことで、手応えを感じていなかったり、「自分だけ」に与えられた評価ではなかったりしていることもあるのだと感じます。認めた結果を目に見える形で残し、誰もが分かるような認め方を工夫して児童の意欲につなげていきたいです。

⑨説明や指示については、90%超の児童が分かりやすいと答えています。指導者側の自信にもつながる良い数値と受け止める一方、分かりにくいと感じている児童もいることを念頭に、指導してまいります。

⑩自力解決の時間については、個人差があります。感覚で捉えられる子、じっくり時間をかけたい子、もっと時間を必要とする子など様々です。45分間という授業の中で解決の糸口を見付けることができ、時間を有効に使える授業を展開してまいります。